トップニュース

東北教区現地緊急災害対策本部

小中高生を対象に初のスタディーツアー

風化させない「大震災の伝承」

若い世代に大規模災害に対する意識を高め、次の災害に備えてもらいたいと、宗派は東日本大震災で被災した福島、宮城を巡る小中高校生対象の「大震災の伝承スタディーツアー」を8月18日から3泊4日の日程で初めて実施した。2011年3月11日に起きた東日本大震災から13年余。震災の様子を直接知らない子どもたちに、被災地の姿はどう映るのか。ツアーを企画した現地僧侶らの思いとともに3回にわたってお届けする。

（8面に関連記事）

「失った人が懸命に前向く姿に涙が」

ツアーは、「3.11」に関する報道が減少し、被災地においてもその記憶が薄れつつある中、大震災で学んだことの伝承が難しくなっていく現状を憂いた東北教区現地緊急災害対策本部（仙台市青葉区・仙台別院内）が主催。被災地を実際に訪ね、体験談や復興の足跡に触れることで、人々が経験したことを正しく知り、災害に対する知識を身につけ、学びを伝え広めてほしいと企画した。2022年に実施予定だったが、新型コロナで中止。2年越しの初開催となった。

ツアーには北海道、東京、新潟、京都から児童・生徒ら21人と引率者4人が参加。貸し切りバスで、福島県郡山市から沿岸部などを巡りながら宮城県に北上していった。

初日には、本派寺院で東京電力福島第一原発から最も近くに建つ双葉町の光善寺（藤井賢誠住職）を訪問（**写真上**）した。同寺は一昨年、帰宅困難区域の指定が解除されたものの、倒壊を免れた本堂や鐘楼は近く取り壊すことが決まっている。

藤井住職は、寺院活動の拠点を約50㌔離れたいわき市の分院に移したことなどを説明し、普段は締め切っている本堂に子どもたちを案内した。

ちりが堆積した本堂の畳。「土足でどうぞ」と促され恐る恐る上がっていく子どもたち。散乱した仏具や当時使っていたストーブがそのまま置かれている、あの日のままの堂内を目の当たりにした。ほこり混じりの湿気が肌にまとわりつく中、藤井住職は「原発事故の後、帰宅もできず、あの日から修理することなく放置している状態。先人が大切にしてきたお堂だが、取り壊すことが決まった。人が住まなくなって、ネズミさえもいなくなった。皆さんもこんな姿のお寺を見たことがないと思う」と語りかける。「こういう姿をお見せするのは私としてもつらい状況だが、これが現実」という厳しい言葉に子どもたちはじっと耳を傾けていた。

この日は、同町にある東京電力福島第一原発事故の実相を伝える東日本大震災・原子力災害伝承館を訪ね、事故の状況や放射性物質の仕組みなどを学んだ。

2日目以降も、水揚げされた魚介類に含まれる放射性物質の測定を自主的に実施している福島県いわき市の小名浜魚市場（**写真左**）、長期間にわたり避難生活を強いられてきた浪江町の常福寺（廣畑恵順住職）、津波の惨状を残し震災遺構となっている同町・請戸小学校を訪ねた。また、宮城県では、甚大な津波被害を受け、推定で200人近い津波犠牲者を出した石巻市の称法寺（松山善洋住職代務）や同市の門脇地区、日和山公園などを見学した。

地震、津波、原発事故、そして復興…。子どもたちは4日間で何を見て、何を感じたのか。

宗門校の旭川龍谷高校（北海道旭川市）から生徒会メンバーなど13人で参加した宮田莉夢さん（2年）は「浪江町の小学校に残されていたメッセージ（**写真上**）には、家族を一瞬にして失った人の悲しみや、『みんなで一致団結して戻ってこよう』という故郷を思う声が綴られていた。いろいろなものを失った人が懸命に前を向く姿を想像して、涙がこぼれた」、同じく木下恵斗さん（3年）は「これまで震災のことをニュースや映像で見たことはあったが、どこかで他人事にしていた。ここに来て、災害は誰の身にも起こること、『自分だったら』と置きかえて考えることの大切さを思った。僕たちの学びのためにつらい体験を話してくださった方に感謝の気持ちでいっぱいになった」と話した。

また、東京都文京区から参加した加藤凜々花さん（高1）は「東京の私が使っている電気は福島など別の地域で作られていて、その福島の人たちが事故で苦しんでいる。自分と震災をそんな形で結びつけて考えたことなどなかった。『東日本』とひとくくりに言うけど、地域や被災の状況によって全く違う。『百聞は一見にしかず』のツアーだった」。

京都市下京区の森潤さん（中3）は「震災が起こった時は1歳。自分に関係のない話だと思っていた。SNSで情報が入る時代だが、被害の状況を伝える資料館や語り部の人など、現地に来てこそ触れられることがあると実感した。震災を風化させないためにも、いろんな人に触れてほしいと思った」と、それぞれの思いを寄せた。

（次号に続く）

法語カレンダー み教えとともに生活を

生活の中に浄土真宗のみ教えを―2025年版「法語カレンダー」（425㍉×148㍉）を本願寺出版社で販売中。「宗祖親鸞聖人に遇う」をテーマに、13人の先達の言葉（法語）を月ごと（表紙含む）に掲載している。写真は表紙（宗教とは生死を貫くまこと一つの教え／中西智海さん）。カレンダーの発行は、本願寺派など浄土真宗の10派で組織する真宗教団連合。税込150円。

法語を深く味わう法話集も

月々のことば

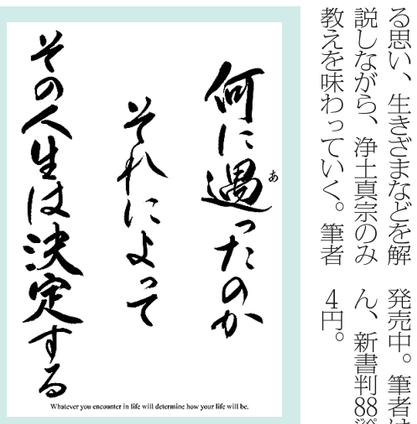
法語カレンダーに合わせて、本願寺出版社はこのほど、法話集『月々のことば』を発刊した。

カレンダーに掲載される、聖人を慕って生きた先達の言葉（法語）の奥にある思い、生きざまなどを解説しながら、浄土真宗のみ教えを味わっていく。筆者は田中信勝さん、大野孝顕さん、井上陽さん、徳平亜紀さんの4人。B6判172㌻、税込1100円。

心に響くことば

法語1つずつに約1000字の短編法話を掲載する『心に響くことば』も好評発売中。筆者は朝戸臣統さん、新書判88㌻、税込154円。

お求めは　本願寺出版社 注文専用フリーダイヤル 0120-464-583



伝道掲示ポスターも

掲示伝道に活用してもらおうと、法語の部分だけをポスターに。B3判、13枚1組。税込1100円。

本願寺新報
hongwanji journal

9月20日（金曜日）

毎月1日・10日・20日発行

発行所　本願寺新報社
京都市下京区堀川通花屋町下ル　浄土真宗本願寺派（西本願寺）
〒600-8501　本願寺出版社内
電話 075(371)4171(代) ／ FAX075(341)7753

浄土真宗本願寺派提携代理店
株式会社 プラニ
寺院災害保険・寺院活動行事保険・あんしん収入補償保険
あんのん医療保険・加盟剛向け災害保険
フリーコール 0120-37-0243
https://www.purani-hongwanjihahoken.com

私たちのちかい

一、自分の殻に閉じこもることなく
穏やかな顔と優しい言葉を大切にします
微笑み語りかける仏さまのように

一、むさぼり、いかり、おろかさに流されず
しなやかな心と振る舞いを心がけます
心安らかな仏さまのように

一、自分だけを大事にすることなく
人と喜びや悲しみを分かち合います
慈悲に満ちみちた仏さまのように

一、生かされていることに気づき
日々に精一杯つとめます
人びとの救いに尽くす仏さまのように

赤光 白光

今夏の災害級の猛暑は人間だけでなく、植物にとっても同じことだろう。35℃を超える猛暑日が続き、焼け付くような異常な日照り続きに耐えきれず、葉焼けや弱った樹木を多く見かけた。

▼異常気象の要因の一つに地球温暖化があると言われている。温暖化の原因はさまざまにあると思うが、その根本原因はやはり人間であろう。私たち人間が求めてやまない利便性への追求が、今の事態を招いているのではないか。『聞く地蔵と聞かぬ地蔵』という宇野浩二さんの童話は、止まることを知らない人間の欲望の姿を表現している。

▼ある貧しい村を訪れた僧侶を村人は手厚くもてなした。そのお礼にと「聞く地蔵と聞かぬ地蔵」の一対の地蔵をもらい受けた。僧侶は「『聞かぬ地蔵』を大切にしなさい」と村人に告げた。しかし村人は願い事をかなえてくれる「聞く地蔵」に、豊作、病気治癒、立派な家屋などをお願いした。次々にかなえられ裕福な村になったが、満足できない。村人たちは他人と比べだし、「隣の家より大きい家」「村一番の金持ち」と、さらには他人の不幸を願い「向かいの家族は病気にしてくれ」となり、隣近所は仇同士の村になった。混乱する村に僧侶がふたたび訪れ、「聞かぬ地蔵」の意味に村人は気づいたという。

▼秋の気配に安堵すると忘れてしまいそうだが、気温が40℃超えが当たり前となるような日本を想像すると恐ろしくなる。人間の貪りのこころの恐ろしさを「聞かぬ地蔵」の意味から学んでいきたい。

福岡支局 〒812ー0002 福岡市博多区空港前 3-9-16 善教寺内
電話 092(621)5163/FAX092(621)9400
購読料 1部120円(年間4,080円) 定期休刊 7月10日、12月10日
浄土真宗本願寺派 代表電話
宗務所 075(371)5181／大谷本廟 075(531)4171

宗派公式Webサイト　https://www.hongwanji.or.jp
本願寺ホームページ　https://www.hongwanji.kyoto

探究社　https://www.tankyusha.co.jp

お念仏のこころをはぐくむ
2025年（令和7年）版
ほのぼのカレンダー
A3判・タテ42cm×ヨコ29cm
1部150円

2025年（令和7年）版『ほのぼのカレンダー』を発売中です。例年通り、故東井義雄先生のお言葉を標語とし、毎月の絵はイラストレーター諏訪門晃先生、文字は故谷内正遠先生の版画文字となっております。また、標語の解説書『正直者からは正直の光が』も1部110円で発売していますので、カレンダーと共にぜひお買い求めください。

探究社オリジナル卓上カレンダー
故谷内正遠先生の木版画集『一人じゃないよ』（探究社刊・2750円）から各季節に合った画を選び、卓上カレンダーを制作しました。
リビングや書斎のデスクの上に置いて、上記の『ほのぼのカレンダー』とともに谷内先生の画をぜひお楽しみください。
（卓上カレンダーには仏教に関する行事の記載はありません）

探究社オリジナル卓上カレンダー
1部900円

〒520-0027　大津市錦織２丁目９-30-101
TEL 077 (599) 4201　FAX 077 (599) 4220
【e-mail】post@tankyusha.co.jp　【表示価格は税込】

法藏館
https://pub.hozokan.co.jp

新刊
魚山余響略註
―江戸時代後期、西本願寺の声明事情を読む
藤波蓮凰［著］江戸後期の西本願寺の僧・知影が著した、天台声明の聖地・魚山での見聞録。魚山声明や、宮中での御懺法講、当時の西本願寺の声明事情が浮き彫りに。
一三二〇〇円

ブッダの奇しき事跡 下
―梵文根本説一切有部律破僧事 全訳
平岡 聡［著］梵文「根本説一切有部律破僧事」世界初の全訳！ブッダの教化へのデーヴァダッタの敵愾心は昂じ、物語は破僧と和合の終結へと向かう。
八八〇〇円

真実の道―歎異抄のことば
前田願海［著］この出遇いが、私を生かしてくれた―人生の師を求め世界中を遍歴した末に、巡り合った恩師と『歎異抄』のことばに導かれた一生。
一一〇〇円

近刊
■起源と発展を辿り、込められた詩情を解説。
新装版 和讃―仏教のポエジー
武石彰夫［著］
一、九八〇円

■古典文学の枠を超えた『歎異抄』の魅力を伝える。
歎異抄を読む―今、念仏に生きる意味を問う
田中好三［著］
一、四三〇円

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入ル　TEL 075-343-0458　FAX 075-371-0458
表示価格は全て税込　新刊メール配信中！　お買上16,500円(税込)以上送料無料

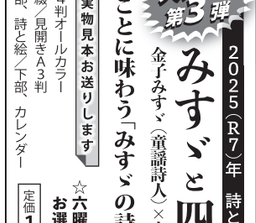
最新刊
勤式作法の変遷（昭和～令和）
堤 楽祐著　定価1210円(税込)
浄土真宗本願寺派の主に本山に関する勤式作法、そのほか一般寺院を含む宗門全体に関係する事柄について、昭和～令和にかけてどのような経過を経て、いつ頃どのような理由で変わったのかを解説する。

二〇二四年度 安居講本
『浄土論』講讃 十二講
北塔光昇著　定価6050円(税込)
真宗教義の根幹を為すものが、『浄土論』であり『論註』である。この書では、宗祖親鸞聖人が『論註』の多くを引かれた教行信証「証文類」への引用箇所を中心にして、『浄土論』を解説する。

親鸞と現代
武田龍精著　定価3080円(税込)
主に、阿弥陀如来と凡夫存在の入不二的関係論、宗教多元時代における浄土教の脱構築の問題、核兵器の時代における「生老病死」、宗教と現代宇宙論、宗教と科学のあいだに関する課題、仏教思想とホワイトヘッド哲学について考察する。

永田文昌堂　600-8342 京都市下京区花屋町通西洞院西入
TEL 075-371-6651　FAX 075-351-9031

大好評 第3弾
2025(R7)年 詩と花の絵のカレンダー
みすゞと四季
金子みすゞ（童謡詩人）×山田りえ（日本画家）
月ごとに味わう「みすゞの詩」と「花」。
みすゞとし3
実物見本お送りします
☆六曜入もお選び頂けます
A4判オールカラー 中綴／見開きA3判 上部、詩と絵／下部、カレンダー
定価150円(税込)



日めくり万年カレンダー ❖東井義雄記念館 監修
直筆版『東井義雄』
書は人なり 心に滲みる 言葉の数々
サイズ：縦24cm×横20cm
表紙2頁＋本文31頁＋台紙
定価1,100円(税込)
年末年始の授与品などにオススメ!!

浄土真宗 文例集構成 全45文例
あったか年賀状 文例集
挿絵：林郁子 A5判 オールカラー 定価330円(税込)
おもしろ年賀、悲しみのなかの年賀、涙の年末ごあいさつ、真宗ご法義の味わいなど一貫ごとに浄土真宗の味わいあり。

名入れ受け賜わり中!!
※ご購入価格5,000円以下の場合、送料は全国一律550円(税込)にて発送させていただきます。
方丈堂出版 https://hojodo.jp/　フリーダイヤル 0120-557-750
京都市伏見区日野不動講町38-25